

【第4・5回】中医学会勉強会 漢方応用講座

不眠，癢痒感を伴う膈乾燥

解説者：路 京華先生

レポート：岸 奈治郎（平成日高クリニック 和漢診療部）

日時：【第4回】2013年3月9日（土）

【第5回】2013年5月11日（土）

- 【症 例】 52歳女性
- 【主 訴】 消瘦3年・不眠・腹脹痞悶・癢痒感を伴う膈乾燥
- 【現病歴】 X-3年に卵巣嚢腫で子宮・卵巣を摘出後から、体重が5キロ程度減少した。
易疲労感があり、足が重く腰もだるい。睡眠が浅く、1:00頃に目が覚めるとその後眠れなくて夢も多いため安眠できない。
このような症状が続くためX年12/30治療希望で受診した。
- 【現 症】 心煩急燥、興奮しやすい。
頭皮が締め付けられる感じ、押すと痛む。たまに頭脹頭痛、聴力低下、目がぼやける。
口が渴き水を欲しがる。特に夜間に口が渴く。膈が乾燥し不快感があり痒くて辛い。
午後に腹脹。ガスが出れば楽になるが、臭いが強い。
便通は一日に一回、排便時に腹に力が入らず難渋する。便の性状は軟かい。
- 【診察所見】 脈：弦細上魚際
舌：舌質：淡紅 舌尖：辺紅 苔：薄白
※上魚際：寸脈よりも手掌側まで拍動を触知すること。肝気・肝火の傾向が強いときに見られる。
- 【考 察】 ・X-3年に卵巣嚢腫で子宮・卵巣を摘出後から、体重が5キロ程度減少した。～手術によって強い負担がかかり気血両虚、もし

くは気陰両虚になった。

- ・易疲労感があり、足が重く腰もだるい。～疲労感は気虚に特徴的。足が重く腰に症状があるため、腎虚によるものとも考えられる。
- ・睡眠が浅く、1:00 頃に目が覚めるとその後眠れなくて夢も多いため安眠できない。～夢が多く安眠できないのは、心・肝の血虚をうかがわせる。
- ・心煩急燥、興奮しやすい。～神志の異常と考えられる。
- ・頭皮が締付けられる感じ、押すと痛む。～拒按は実証に特徴的。
- ・聴力低下、目がぼやける。～聴力は腎に由来し、視力は肝・腎に由来することが多い。
- ・口が渴き水を欲しがる。特に夜間に口が渴く。膈が乾燥し不快感があり痒くて辛い。～陰虚、特に腎陰虚をうかがわせる。
- ・午後に腹脹。ガスが出れば楽になるが、臭いが強い。～気滞。臭いが強いことから熱を挟んでいると思われる。
- ・便通は一日に一回、排便時に腹に力が入らず難渋する。
- ・便の性状は軟かい。～脾胃が障害を受けている可能性が考えられる。
- ・脈：弦細上魚際～肝気上亢、肝火上炎。
- ・舌：舌質：淡紅 舌尖：辺紅 苔：薄白～熱を持っており、舌尖で赤いということは心の熱が考えられる。舌苔から湿はかかわっていないようだ。

【解説】 52 歳という年齢的に陰が不足した状態のところに、卵巣子宮摘出をしたことでより一層陰虚を助長したと思われる。口が渴いたり、膈が乾燥したりするという症状は陰虚によるものと考えられる。腎精と肝血は同源であり、陰虚によって肝血虚を促したようである。肝陰血が不足したことによって気のめぐりが急になり、煩躁するような症状が見られ興奮しやすい精神状態になってしまった。急になった気は疎泄作用が低下した環境の中で鬱結し、熱を持って上亢していく。そうすると頭痛がしたり不眠の原因になることは想像が付く。

肝は「剛臓」と教科書に書いてあることが多い。肝は強い臓器と思われがちであるが、もともと「柔」であり、「木」の伸びやかな性質を持つ。ストレスを受け、肝陰血を消耗することで「剛」になってしまう症状が出現するのである。肝の気を流暢にする治療

をしなければならないのはいうまでも無いが、治療は本を求めるといふ言葉もあるとおり、治療の原則としては、標証（肝）のみならず本治（腎）も同時に行っていかなければならない。そのためには、肝気上亢を押さえ、腎陰を補う治療が必要である。今回の症状は 陰虚→枯→急→鬱→亢という状態の流れがあり、それぞれの症状が見られ、より一層複雑な症状となっている。よって治療には陰虚→枯→急→鬱→亢に対応して「補・柔・緩・散・収・潜」の治療が必要であり、滋をもって陰虚を補い、水をもって枯を柔かくし、甘をもって急を緩め、辛をもって鬱を散じ、酸をもって亢を収め、鎮をもって潜めるような方剤構成にしなければならない。

しかしながら、疎泄を改善したり熱を冷ます生薬というのは得てして乾燥傾向が強かったり、脾胃を傷つけやすい性質があったりする。この患者は下痢気味だったり、おなかが張るような症状もあるので、安易に滋陰する重い薬を使ったり、疎泄を改善する乾燥傾向の薬を使うわけにはいかないという点に注意する必要がある。

【病 性】 表寒熱挟雑実

【病 勢】 邪実

【病 位】 陽明病位 表衛

【病 邪】 風寒湿邪 湿熱

【弁 証】 肝腎陰虚、気鬱化熱、陽亢逆上、胃失和降

【治 法】 滋水涵木、清心安神、柔肝鎮逆、輕展気机

【処 方】 取青蒿鳖甲、六味、酸棗仁湯意化裁

炙鱉甲 20	先煎	山茱萸 10	沙苑子 12	覆盆子 10
肉苁蓉 10		蓮子心 9	川楝子 9	白芍薬 12
北沙参 10	百 合 10	知 母 10	天 麻 12	
玫瑰花 9		炒棗仁 15	枳 殼 9	青陳皮各 6

* 川楝子 せんれんし 苦 寒 肝

疏肝理気・止痛：肝気をよくめぐらせ止痛するとともに、寒性であり鬱熱を除く。熱証を伴う肝気鬱結証によく適する。路老師によると、寒の熱を尿から出す道を作るために使っているとのことだった。

* 玫瑰花 まいかいか (バラ科マイカイの花蕾) 甘 微苦 温
肝脾腎

芳香性があり軽く、温和な気血通利薬で陰血を消耗しない。肝気をめぐらせ止痛し、胃気を調和する。路老師によると、この症例では口渇や膈の乾燥があり燥性のある薬は使いにくい。柴胡は肝気をめぐらせる為によい薬ではあるが、燥性があるため使いにくい。

■ 代用できる方剤

- ・ 黄連阿膠湯 3
- ・ 知柏地黄湯 4.5
- ・ 酸棗仁湯 3
- ・ 天麻末 1.5 /分3
- ・ **玫瑰花茶**

● **黄連阿膠湯** (傷寒論)

黄連 黄芩 阿膠 白芍 鶏子卵

(効能)：泄火育陰

(主治)：邪の侵入により邪熱隣、腎陰が消耗するとともに心火が熾盛になり、心腎不交のため焦燥・不眠をきたしたものの。

● **知柏地黄湯** (医宗金鑑)

知母 黄柏 熟地黄 山茱萸 山薬 沢瀉 茯苓 牡丹皮

(効能)：滋陰降火

(主治)：腎陰虚で火旺が顕著になっているもの。

● **酸棗仁湯** (金匱要略)

酸棗仁 炙甘草 知母 茯苓 川芎

(効能)：養血安神・清熱煩躁

(主治)：肝血不足・陰虚上擾

● **玫瑰花茶**

【コメント】 本症例に対する私の弁証は下記のとおりであった。

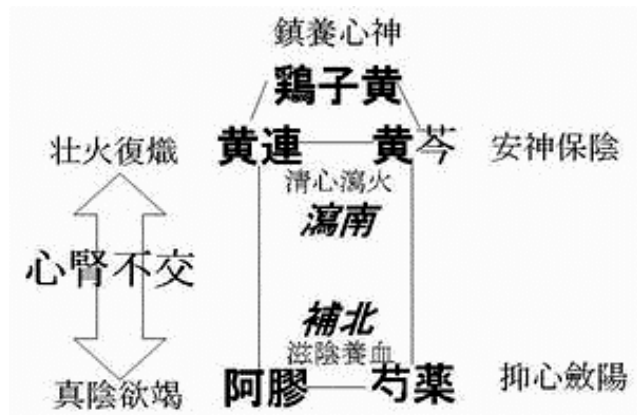
【病性】 裏熱虚実挟雑

【病勢】 正虚邪実

- 【病位】 心肝腎
- 【病因】 気血量虚 陰虚火旺 心腎不交
- 【弁証】 肝腎陰虚 肝陽上亢 心腎不交
- 【治法】 滋陰肝腎 沈肝熄風 交合心腎
- 【処方】 一貫煎 釣藤散 交泰丸

この私の弁証に対して路京華老師から次のようなアドバイスをいただいた。一貫煎は確かに肝腎陰虚に使う方剤だが生地黄が含まれている。生地黄は補陰作用というよりも麦門冬と協力して津液を補うと考えられる。また、防風は「風薬の中の潤薬」とは言われるが、やはり乾燥傾向が強いことは否めない。釣藤散は沈肝熄風を主治とするが、柴胡のような乾燥させる薬が含まれている。これらの生薬は今回の症例にはよくないので、一考する必要があるとのことだった。

黄連阿膠湯はもともと傷寒論の出展であるが、「少陰病これを得て二三日以上、心中煩し、臥するを得ざるもの」とある。温病条弁でも用いられており「少陰温病、真陰欲竭



陰竭（つ）きんと欲し、壯火（邪熱。余った熱は気血を消耗する）また熾ん」の状態に用いる。腎陰が消耗しており心火熾盛で心腎不交のため焦燥、不眠を来たした場合に適している。ここで八卦による心腎不交の解説があったが不勉強の私には、レポートできるほど理解できなかつた。挿入した図の解説にとどめるが、五行論に対応させると心=南、腎=北である。黄連阿膠湯の方剤構成は阿膠・芍薬で滋陰養血し、黄連・黄芩で清心瀉火している。鷄子黄で鎮養心神を増強させている。これを瀉南補北法という。

上記解説では私も理解が難しいので、一般的な心腎不交の解説を追加したい。

心と腎は上焦と下焦に位置している。腎陰は心陰を補い、心陰は心陽を制御し、心陽は腎陽を温め、腎陽は腎陰を温く、蒸化し

ている。この状態は「水火既濟」とか「心腎相交」といわれている。これらのバランスが崩れることによって、たとえば心陽が低下すると腎陽を温められなく、腎水が冷えて気化されなくなり、水が心に影響して「水気凌心」となる。腎陰が不足すると心陽の亢進を押しえられなくなり不眠や煩躁などの「心腎不交」の症状が出現することとなる。

第5回中医学会勉強会

【経過】

◆4/23

頭がすっきりし、睡眠も改善。発汗が少なくなり、胃の張りが軽い。4月1日、過労のため、尿路感染による発熱があったが、今は特に異常はない。しかし、腰の不快感、左肩の周りの締付け、刺すような痛み、老人性膀胱炎による膀胱の乾燥感、痒みを感じる。

舌が淡紅 苔薄白 脈が弦細弱。

【考察】

頭がすっきりし、～肝陽上逆が押さえられている。

睡眠も改善。、～心火もとれてきた。

胃の張りが軽い。～気鬱が取れている。

腰の不快感、左肩の周りの締付け、刺すような痛み、老人性膀胱炎による膀胱の乾燥感、痒みを感じる。～腎虚の症状が顕在化してきた。

舌が淡紅 苔薄白 脈が弦細弱。～未だ肝気が高ぶった状態が続いているようだが、脈も細く陰虚も見られている。

【処方】

炙鼈甲 20	先煎	百合 10	知母 10	山茱萸 10
肉苁蓉 12	天麻 10	芍薬 15	蓮子心 9	
玫瑰花 9		青陳皮各 9	当帰 9	炒棗仁 15
枸杞子 12	女貞子 12	沙苑子 12	枳 殼 9	28日分

前回処方から覆盆子と川楝子を去り、当帰、枸杞子、女貞子、北沙参を加えている。

女貞子は二至丸の構成生薬であり、滋腎養肝作用を持っており、当帰・枸杞子は肝陰血を補う。北沙参はハマボウフウの根で胃陰を補い津液を保つので、肝腎陰虚による気体に用いられる。滋陰作用を増強させた処方と考えられる。

◆ 5/22

睡眠が大分良くなって、夢も少なくなる。5～6時間熟睡できるようになった。

頭がすっきりした。但し、ここ20日間近く、腹部中脘と臍周りを押したりすると、ゴロゴロ振水音がし、押した後、腹部の痞悶感が減る。何となく痞塊があるような感じがし、よくもむと消失する。便は一日に一回だが、性状は形にならない。毎朝、500CCの温水を飲む。

舌淡紅、苔白、脈弦細

【考察】

睡眠が大分良くなって、夢も少なくなる。5～6時間熟睡できるようになった。

～肝血が補われてきているようだ。

頭がすっきりした。～肝陽上亢は押さえられてきているようだ。

肝腎陰虚の症状は軽減してきているが、腹満感や振水音など、以前からあった消化器症状が顕在化してきている。

【処 方】

炙鼈甲 20 先煎 旱蓮草 10 女貞子 10 枸杞子 15
肉蓯蓉 12 黄精 15 竹節参 10 竹柴胡 6
草叩仁 6 厚朴 9 青陳皮各 9 玫瑰花 9
雲茯苓 12 懷山藥 15 炒棗仁 15 蓮子心 6 25 日分
前回処方から 百合 知母 山茱萸 天麻 白芍 当歸 沙苑子 枳殼を去り、
旱蓮草 黄精 竹節人参 竹柴胡 草叩仁 厚朴 雲茯苓（雲南省産の茯苓）
懷山藥（河南省懷山で産出された山藥）を加えている。

旱蓮草と女貞子は二至丸を構成しており補腎養肝作用である。

黄精はカギクルマバナルコユリの根茎で百合に近い生薬だが、百合のような安神作用は無い。滋陰潤肺する気陰両補薬であり、益気補脾・腎精の滋養作用のある生薬である。

草叩仁は草豆蔻（そうづく）のことで燥湿温中薬で、行気作用が強く、行気作用が強く建脾・止嘔吐・止痢作用に優れる生薬である。

◆ 6/19

睡眠も良くなり、夢がほとんどなくなる。

腰の痛みもなくなる。老人性膀胱炎の症状も解消、腹脹痞悶も消えた。なお便は柔らかい。

舌淡紅、薄白苔、脈弦細弱。

【処 方】

竹節参 10 黄精 15 山茱萸 10 炙鼈甲 20 先煎
女貞子 10 覆盆子 10 肉蓯蓉 10 山藥 12
厚朴 9 草叩仁 6 青陳皮各 9 木香 9
石菖蒲 12 鬱金 6 炒棗仁 12 薏苡仁 20 20 日分

上記処方で症状改善し、廃薬となった。

鬱金：辛苦寒 行気活血。疏肝解鬱作用に優れる。

【コメント】

第4・5回と同じ症例を掘り下げて勉強することとなった。

エキス剤や経方、決まった方剤構成になれている私は、自為方について知識が少ないため、路先生が自由自在に生薬を組み合わせる治療を理解していく

のがやっつとで、自分で治療するとなるとどうして良いものかと悩んでしまう。平素からエキス剤や経方の生薬構成やその構造を勉強していればその組み合わせである、ともいえる。

しかし、燥性のある風薬は使わないとか、六味丸といえども沢瀉や茯苓を使う必要があるのかなど、一味一味の検討というのが重要なのだとご教授いただいた。

また、一つ一つの症状を取り上げて、なぜ訴えが起こっているのかということを一元的に説明できるということは、本治を求める治療にあっては大変重要であり、実際の臨床での四診（特に問診）で情報をきちっと集めるということの重要性を改めて認識した勉強会であった。

路先生の解説が、陰陽五行を超え、気学、八卦、道教に及び、先生の幅広い知識と奥深い教養を痛感し、今後とも研鑽を積んで行こうと思ひました日だった。